

神戸市立博物館 外部評価書(25年度)

使命 (要点)

- 多様な神戸文化の特徴と東西文化交流の態様を明らかにし、地域の発展に役立つ「知の拠点」となります。
- 優れた文化・芸術にふれあう機会を「提供」し、新たな調査・研究を「提案」し、その成果を「発信」する博物館となります。
- 市民・利用者が集い、神戸を愛し、誇りとする拠りどころが得られる博物館になります。
- 震災と復興のなかで得た知見を発信していきます。

活動目標

- 1 地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします
文化財を保存・継承していく博物館にします
- 2 すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします
- 3 芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします
- 4 すべての人々にやさしい博物館にします

活動指針

- 市民が誇れる博物館
- すべての人々に親しまれる博物館
- 地域の文化を支える博物館
- 情報発信をする博物館

※各活動目標に対する外部評価の平均スコアは委員評価(A~D)の平均による

A: 4点、 B: 3点、 C: 2点、 D 1点で算出。

A : 3. 25点以上

B : 2. 50点以上 3. 25点未満

C : 1. 75点以上 2. 50点未満

D : 1. 75点未満

平成 25 年度の総評

自己点検評価による総評

上半期は、空調設備工事のため休館したが、その間、所蔵資料を活用して、九州や市内において作品展などを展開し、市内外に本館の魅力を発信できた。さらに、勤労市民センターと連携して、学芸員が地域の歴史や史跡、美術をテーマにした講演会を新たに展開できたことは、大いに評価することができ、今後の事業展開に繋げていきたい。

空調設備の更新後の、下半期に開催した二つの海外巡回展は、安定した温湿度で開催できた。この展示室環境の改善は、来館者の満足度がやや向上した要因の一つとも考えられ、継続的に大規模展覧会を開催することができるようになった点も評価できる。

しかし、開館以来、施設設備の大規模な改修は行っておらず、来館者の苦情の多くが、会場の狭さやトイレの少なさなどであり、今後、リニューアルを見据えながら必要な施設設備の改修を検討していきたい。

なお、4本の活動目標の自己評価は昨年度と同様であった。

外部評価による総評

活動目標に対する評価は「すべての人々にやさしい博物館にします」が B 評価、他の 3 点は A 評価となった。これは自己点検評価も含め、昨年度と同様の評価結果である。A 評価が続いている 3 点の活動は、博物館のこれまでの事業展開や継続的な取り組みの成果がよく表れているのだと考える。委員の指摘にもあるように、調査研究・資料収集、自主企画の展覧会などの活動にも充分に取り組める体制づくりや情報発信を通じて存在感を増していく取り組み、館蔵品の活用・アピール、連携・交流の強化などについて、より一層取り組まれるよう期待したい。その際、持続的に活動ができるよう選択と集中を進めることも検討されたい。

B 評価となった「すべての人々にやさしい博物館にします」は、館だけの努力では改善が難しい面がある。常設展示のリニューアルやカフェやショップなども含めた施設・設備の総合的なリニューアルについて、ハード面だけでなくソフト面を含めて検討し、神戸を代表する博物館にふさわしい計画を期待したい。

活動目標 1

地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします 文化財を保存・継承していく博物館にします

自己点検評価・・・A

地域の歴史の調査・研究は、ほぼ計画通りに目標に向けて進捗している状況である。情報発信についても、半年間の休館中に例年とは異なる館外での講座、講演をより多く開催し、意義のある事業展開ができたと考える。今後も、より計画的、組織的に活動目標を達成するように努める必要がある。

外部評価・・・A

- 他の博物館での展覧会の開催など、新企画の取組に努力されていた。
- 休館中、館外で作品展をされたことは、博物館を知ってもらい、身近に感じてもらうことに効果があったと考えられ、評価できます。ただし、その活動についての広報（こんなことをやりますというアピール）や行った後の振り返りが市民に知られていないことが残念です。
- 資料収集（購入・寄託）をもう少し積極的に行ってください。
- 平成 25 年度は空調工事のため特別展・企画展を例年どおりには開催できなかったが、他地域での開催を通じて当館のコレクションを広く紹介する機会を得たことは大変意義のあることだと考える。図録出版などを通じ、それらの研究成果を内外に発信できたことも評価できる。多様な神戸の文化について調査・研究を行い、収集・公開、情報発信を通じて当館が

神戸の「知の拠点」としてさらに存在感を増していくことを期待したい。

また、魅力的な博物館の姿を発信していくためには継続的で地道な研究・調査の蓄積が不可欠であろう。そうした意味から、様々な企画・運営に携わりつつも、職員（学芸員）の方が常日頃から本来の研究・調査活動に十分に集中できる体制を、今後も確保していくことが望ましい。

- 休館中であっても館外で様々な事業展開をされ、情報発信をする博物館となっています。
- 地域について調べていただいたことを区役所と連携するなどして、中高生（あるいは小学生）にでも地域学習に役立つ形でパンフ作成ができないだろうか。
- 情報発信は、委員にも定期的に送付して欲しい。メール等でも可。
- 文化財の収集が少なかった理由は？文化財の保存という博物館の重要な使命については、継続的な取り組みが評価できる。
- 神戸として特色ある博物館を目指して欲しい。

活動目標 2

すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします。

自己点検評価・・・A

空調設備改修工事を完了させ、安定した温湿度でプーシキン美術館展、ターナー展を開催することができた。ロシアに渡った17～20世紀のフランス絵画の名品を展示し、特に質の高い印象派絵画の数々を紹介することができた。神戸でフランスもうらやむ絵画コレクションを展示した意義は大きい。テート美術館の至宝であるターナーの大作、水彩の数々を展示した。世界的名品だけでなく、まちづくり会館で所蔵の近代絵画の優品を展示し、神戸ゆかりの芸術にふれる機会をつくったことは評価される。

外部評価・・・A

- 開館以来30年、堅実な運営を継続されていることに敬意を表します。
- 自分の住む町で世界的名品を目にする機会を得られたことは、市民としては嬉しく、誇りに思います。欲をいえば、温湿度などの設備の改善だけでなく「見せ方」に工夫をしてもらいたい。ビデオ上映だけでなく、館に来なければ味わえない楽しみを何か提供してもらえれば「混雑している」ことも気にならなくなるのではないか。
- プーシキン美術館展、ターナー展のように世界的に名高い絵画の名品の展示を神戸で行えたことは高く評価できる。空調工事も完了したので、今後もこうした世界的な名品の展示会を積極的に開催していくことが期待される。動員数が目標入館者数には到達しなくても満足度が高かった点は特に評価できる。目標値に達しなかったのはハード面の問題も大きいのではないか。事業評価を行う場合、どうしても入館者数などのデータに頼らざるを得ないが、芸術・文化活動は本来、数値のみで測り、評価し得るものではないので、数量的なものだけではなく、「質」をどのような尺度で評価していくべきか、今後も考えていく必要がある。
- また、常設展示については、居留地や開港関連の史料をはじめ、神戸の歴史を知るうえで大変重要なものが多い。こうした貴重な史料・展示物の展示方法については様々な工夫が必要であろう。常設展における展示上の工夫やギャラリートークなどは大いに評価できる。しかし今後、常設展をさらに充実させていくためには大幅なリニューアルが必要。費用の確保など大きな課題があるが、より魅力的な常設展示の実現に期待を繋ぎたい。
- 素晴らしい名画の展示、貴重なコレクションとの神戸での出会いに感謝致します。
- 常設展も時としてアレンジが入ればなおよくなる。おきしお号をふくめ芸術、文化を広く発信できるようやっていると思う。
- 最近では大型の絵画展があり、良かったです。一方で、館蔵品の価値も高いのでそれをもっと活用できれば良い(難しいですが・・・)。

活動目標 3

芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします

自己点検評価・・・A

学校との連携は、これまでどおり出張授業の校数では限界の状態を実施しており、展覧会毎のワークショップ、さらには学習支援交流員主導によるワークショップも積極的に展開してきている。新規教材の開発も視覚障害者対象の館藏品解説パネルなど、新たな教材開発が行われ 27 年度にも継続する予定である。今後の課題としては、おきしお号のより一層の活用方法を考える必要がある。他館との連携では館蔵資料の貸出以外に、当館企画の展覧会を多感で開催したこと、また他館との共催でシンポジウムを開催するなどの成果があり、今後も連携の強化に努めていくことが必要である。

外部評価・・・A

- 出前講座(学校を中心としたもの)は大変有難い。今後も継続して欲しい。
- 毎年評価書を見て思うことは「人的に限界」という活動についてあまり見直しがされていないということ。「○回やれたから A」ではなく、別の方法を考えなければ、博物館の本業に支障をきたすのではないかと心配している。
- 半年間の工事休館期間を利用して、長崎歴史博物館、九州国立博物館と連携し、当館のコレクションを展示し、他地域にその魅力を発信できたことは評価できると思う。今後も、他地域の博物館・美術館との連携を強め、交流を深めていくことを期待したい。地域連携という観点からは、みなと銀行や神戸ビエンナーレとの連携は高く評価できる。その他、旧居留地連絡協議会、周辺商業施設との連携についても、工夫次第では今後さらに効果的な連携・交流が期待できよう。例えば大丸神戸店(大丸ミュージアム)や周辺のアトスペース(KIITO:デザイン・クリエイティブセンター神戸)などと連携し、博物館を拠点に神戸アート・ラリーのようなものができれば、芸術・文化に関して市民の関心を惹くのではないか。また、旧居留地内を案内しているボランティアガイドの方々との連携・協力事業なども考えられる。
- 出張事業等に加え、多様な連携等、負担が増えるばかり。選択と集中で是非、持続可能な範囲でお願いしたいと思います。
- 広報にインターネットの有効活用を今後は心がけるべき。
- 学校との連携には常々感謝をしています。限界に近づいている状況や内容の改善が求められるなど、苦勞がしのばれますが、人は増やせなくとも外部との連携(区役所、高校、美術館等)で何かできれば。
- 今年度の特殊事情の実績を継続させる方策が必要。人手が足りないなら他機関に要請すれば、対応してくれると思われます。

活動目標 4

すべての人々にやさしい博物館にします

自己点検評価・・・B

施設・設備の改修が必要な箇所はまだ多くあるが、空調設備の改修を終え、人用エレベーターの改修等も 26 年度に予算計上されている。ただ、来館者の苦情の多くが会場の狭さやトイレの少なさなどであり、常設展示のリニューアルを見据えながら、ユニバーサルデザインへの対応を含め、必要な施設、設備の改修を進めていく。

外部評価・・・B

- リニューアル基本計画に基づいて、さらに全ての人々に優しい博物館にしてほしい。
- 常設展示の会場の狭さの関係かインパクトに欠けるところがある。神戸を代表する博物館であるので、ダイナミックなものにして欲しい。
- 施設の老朽化を避けられるものではなく、限られた予算内で最大限努力されていると思います。改修すれば当面は「新品」ですが 5 年たてば中古です。「サービス」の内容はやはりハードだけでなくソフト面も重要なので常設展示に工夫をして欲しいと思います。

- 来館者の苦情が多いことから伺えるが、とくに企画展などの場合、会場の狭さが大きな問題であろう。神戸の「知の拠点」として、施設・整備のリニューアルを総合的に考えていく必要がある。また近年では、展示スペースのみならず、ミュージアム・カフェ、ミュージアム・ショップなどの施設が果たす役割も大きく、重要になってきている。来館者が博物館を身近に感じ、愉しみ、くつろげるよう、これらの施設についても、より魅力的なものに近づけていけるよう、リニューアルを検討する必要があるだろう。
- 会場の狭さについては厳しい問題ですね。
- 展示品の解説は以前よりも見やすくなった（文字大きくなる）。展示品で小さなものについては、人の眼の位置を意識してもらえれば。
- 施設に関わる点は、館だけの努力ではできない。問題点をきちんと把握し、改善への取り組みを続けていることは結果だけを見るのではなく、もっと評価すべきでしょう。
- 誰でもが足を運びたくなる博物館を目指して欲しい。